

2005年 8月 24日

国立大学法人東京大学

日本オラクル株式会社

東京大学と日本オラクルがバイオ事業において産学共同研究を開始
～次世代健康科学を目指したライフサイエンスと情報技術の統合研究を推進～

国立大学法人東京大学（総長：小宮山 宏、以下東京大学）と日本オラクル株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長 新宅正明）は、バイオ事業の共同研究を開始したことを発表します。本共同研究は、東京大学の新しい知の創造、学術と社会の交差を触発するための「知の構造化」計画の一環で、ライフサイエンスにかかわる総合的情報解析技術の基盤を確立するものです。

人体を構成している重要な要素である細胞は種々さまざまであり、またその中の遺伝子の働きには人種的に異なるものがあることも認識されつつあります。さまざまな細胞の遺伝子情報など統合的な情報を蓄積し、解析することができれば、近い将来、健康に関わるあらゆる産業への活用が期待できます。生命、特に細胞を制御している情報量は膨大で、その情報を格納する、コンピュータ技術のさらなる進歩が求められています。今回の東京大学と日本オラクルの共同研究は、将来極めて重要な課題となるであろう健康と生活の質について、生体の有する情報の観点から新たなアプローチを行おうとするものです。両者は、ゲノム解析を始めとし、細胞が有している巨大な情報の解析に関わる統合プロジェクトを実施します。東京大学ではこれまでもライフサイエンス分野において世界的な貢献をしてきましたが、今回の共同研究は将来的に健康と生活の質という公的意義の高い分野へ貢献する結果を生み出すために、ライフサイエンス分野からQOL（クオリティ・オブ・ライフ）向上のための構造化を担います。日本オラクルは、東京大学のこの考えに賛同し、データ格納のためのデータベース製品を提供するほか、研究費用、蓄積した研究データを解析する技術を提供していきます。

東京大学と日本オラクルでは、ライフサイエンス分野等で扱われる、巨大な情報をいかに解析・統合するかが今後のライフサイエンスの鍵となると考えています。東京大学が研究開発している細胞の解析技術と日本オラクルの製品、両者の技術交流は、個人の体質や病状の違いによって最適な薬を投与する医療の考え方「テーラーメイド医療」をも実現する可能性を秘めた画期的なものとなります。こうした研究が進むと、健康産業、医学、医薬品産業などに革新的な変化がもたらされると考えられます。このようにスケールの大きな知的産業の創造は、日本が生き残り、高度な産業国家として新たな地平を切り開く上で、必須のものです。今後も、東京大学と日

本オラクルは継続して産学の連携に注力してまいります。

東京大学 工学系研究科長 平尾公彦 コメント

東京大学工学系研究科では融合分野人材育成「医療ナノテクノロジー人材養成ユニット」、医工連携教育研究、バイオエンジニアリング教育研究などを通じてバイオテクノロジーと工学の融合による新たな価値の創造を目指しています。本共同研究はこのような本研究科の目指す方向を踏まえた産学連携プロジェクトであり、大きな成果があがることを期待しています。

テーラーメイド医療について

個々の患者の遺伝子の違いを明らかにすることによって、その人に最適な治療や予防を可能とする医療のこと、オーダーメイド医療とも呼ばれる。

国立大学法人東京大学について

1877年創立、2007年には創立130周年を迎える総合大学。10学部・15大学院・11研究所などで約3万人の学生と4千人の教員を擁しています。2004年11月に英国のThe Times紙が発表したThe Times Higher Education Supplementにおいては、Science および Engineering and IT で世界7位にランクインしました。また、総合でも12位にランクインしており、さらなる発展を目指しています。http://www.u-tokyo.ac.jp/index_j.html

日本オラクル株式会社について

日本オラクル株式会社はオラクル・コーポレーションの日本法人として1985年に設立されました。国内を拠点とした情報システム構築のためのソフトウェア製品、ソリューション、コンサルティング、サポートサービス、教育の事業を展開しています。1999年2月5日の店頭市場への株式公開、2000年4月28日に東証一部上場。従業員数1,481名(2005年5月末現在)。

<http://www.oracle.co.jp/>